

御製 五首

平成二十年

皇居東御苑

江戸の人味ひしならむ果物の苗木植ゑけり江戸城跡に

日本ブラジル交流年・日本人ブラジル移住百周年にちなみ群馬県を訪問

父祖の国に働くブラジルの人々の幸さちを願ひて群馬県訪ふ

岩手・宮城内陸地震

災害に行方不明者の増しゆくを心痛みつつ北秋田に聞く

中越地震被災地を訪れて

なるにより避難せし牛もどり来て角突きの技見るはうれしき

正倉院事務所修補室

宝物ほうもつの元の姿を求めむとちりを調ぶるいたづき思ふ

御製 五首

平成二十年

皇居東御苑

江戸の人味ひしならむ果物の苗木植ゑけり江戸城跡に

陛下の御発案で、平成二十年、一般に公開されている皇居東御苑の江戸城本丸跡に、現在では栽培されることの少なくなつた江戸時代の果樹古品種が植えられることとなり、梨と柑橘類の苗が両陛下によって植えられた。この御製は往事の果樹と人々のことに思いを馳せながらお手植えされた時のことを詠まれたものである。

日本ブラジル交流年・日本人ブラジル移住百周年にちなみ群馬県を訪問

父祖の国に働くブラジルの人々の幸さちを願ひて群馬県訪ふ

日本ブラジル交流年・日本人ブラジル移住百周年に当たる平成二十年四月、両陛下は多くの日系ブラジル人が働く群馬県の太田市と大泉町を訪問された。この御製は、かつてブラジルに渡つた日本からの移住者が、ブラジル人によつてその土地に受け入れられたように、いま日本で働く日系ブラジルの人々が幸せに暮らせるようにというお気持ちを込めて詠まれたものである。

岩手・宮城内陸地震

災害に行方不明者の増しゆくを心痛みつつ北秋田に聞く

平成二十年六月、全国植樹祭のため秋田県にお発ちの朝、岩手・宮城内陸地震が発生した。秋田県の被災地は南部であり、県北の北秋田市で開催される植樹祭は予定通り行われるとの連絡で、両陛下は東京を発たれたが、災害対応を優先するようにとの思召しから秋田県知事・県議会議長・県警察本部長の空港お出迎えをお取りやめになり、現地では随従した警察庁長官から随時被災状況のご報告をお受けになつた。この御製は、行幸啓中次第に明らかになる被害状況にお心をお痛めになる様を詠われたものである。

中越地震被災地を訪れて

なるにより避難せし牛もどり来て角突きの技見るはうれしき

平成十六年の中越地震により甚大な被害を被った山あいの長岡市山古志地域にも、避難していた人々が戻り伝統の牛の角突きも再開された。両陛下は、地震直後にお見舞いのため被災地に赴かれたが、その際には訪れることが困難であった山古志地域を、平成二十年秋に訪問され、当時それぞれヘリコプターと陸路で避難し無事に戻ってきた二頭の牛の角突きの練習もご覧になった。この御製はその時のお気持ちを詠まれたものである。

正倉院事務所修補室

宝物ほうもつの元の姿を求めむとちりを調ぶるいたづき思ふ

平成二十年秋、両陛下は主として八世紀半ばの聖武天皇の遺品を納めている正倉院を訪問され、開封中の宝庫で正倉院宝物の点検作業と調査の状況を視察され、修補室では塵埃のようになつた染織品の断片を丹念に修復し、今は形を止めなくなつた宝物本来の姿を追い求める様をご覧になった。これはその時のことを詠まれた御製である。

第五十九回全国植樹祭

秋田県

さはやかに風渡り来る北秋田に人らとともに木々の苗植う

第二十八回全国豊かな海づくり大会

新潟県

稚魚放つ河口のあなた大漁旗かけし船の我らを迎ふ

第六十三回国民体育大会

大分県

過ぎし日の国体の選手入り来たり火は受け継がる若人の手に

皇后陛下御歌 三首

平成二十年

北京オリンピック

たはやすく勝利の言葉いずして「なんもいへぬ」と言ふを肯^{うへな}ふ

旧山古志村を訪ねて

かの禍^{まが}ゆ四年^{よとせ}を経たる山古志に牛^{なほ}らは直^つく角^{つの}を合はせる

正倉院

封じられまた開かれてみ宝の代^よ代^よ守られて来^こしが嬉しき

皇后陛下御歌 三首

平成二十年

北京オリンピック

たはやすく勝利の言葉いずして「なんもいへぬ」と言ふを肯ふうへな

北京オリンピックで、北島康介選手が平泳ぎの百メートル決勝で世界新記録をだし一位となった。直後のインタビューで、思わず発したこの言葉をお聞きになったとき、本当にそうだろう、とそれにうなづかれたお気持ちを詠まれたものである。

旧山古志村を訪ねて

かの禍まがゆ四年よとせを経たる山古志に牛まがらは直なほく角つのを合はせる

昨年の九月、両陛下は四年前の中越地震で甚大な被害を被った長岡市山古志地区で復興の進む様子を視察され、地震当時牛牛として疎開し、今は村にもどった二頭の若牛が、伝統の行事である牛の角突きを練習する光景をご覧になった。この御歌は、平和のもどった村で、素直に角を合わせて押し合う牛の様子を詠まれている。

正倉院

封じられまた開かれてみ宝の代よ代よ守られて来こしが嬉しき

長い間天皇の勅封で守られてきた正倉院宝物は、近年、秋のおよそ二ヶ月間だけ宝庫の勅封が解かれ、点検を受け、再び封をされて保管される。この御歌は、去る十月、第六十回目となる正倉院展をご覧のために奈良国立博物館を訪問され、併せて正倉院で宝物管理の様子をご覧になり、その折りの印象を詠まれたものである。